

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01203

研究課題名(和文) イングランド啓蒙への学際的アプローチ 「開かれた理性」の復権を目指して

研究課題名(英文) Interdisciplinary Approach to English Enlightenment - in Search of the Restoration of "Open Public Reason"

研究代表者

青木 滋之 (Aoki, Shigeyuki)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：50569069

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題、「イングランド啓蒙への学際的アプローチ 「開かれた理性」の復権を目指して」では、18世紀のフランスやスコットランドで展開されたような定冠詞の啓蒙主義(the Enlightenment)がなかったとされる17世紀イングランドにおいて、「実験性」「自律性」「寛容性」という3つの観点から啓蒙運動が確かに見てとれることを指摘した。研究成果は、「イングランド啓蒙研究会」ブログで発信してきたほか、4回の学会セッション報告で公にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

啓蒙主義というと、フランスやスコットランドでの啓蒙主義が思い浮かぶが、それらの啓蒙主義運動の発祥地としてのイングランドでの啓蒙に光を当て、それを様々な角度から(学際的に)研究し、後の啓蒙主義が準備されていったことを明らかにした。イングランドでの啓蒙の特徴としては、実験や経験を重視したことや、人間による自律や自立を目指したこと、他宗教に対して寛容的、受容的であったことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：In this JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research(B) "Interdisciplinary Approach to English Enlightenment - in Search of the Restoration of "Open Public Reason", we have demonstrated that prior to the standard, accepted Enlightenment in the 18th century France or Scotland - THE Enlightenment -, there were movements of enlightenments in the 17th century England ranging from "experiment", "autonomy" to "toleration". Our research results have been made public through our blogs (English Enlightenment Forum of Japan) and the four sessions in academic conferences.

研究分野：思想史

キーワード：イングランド啓蒙 イングランド 啓蒙主義 理性 実験哲学 自律性 寛容 ジョン・ロック

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

啓蒙主義についての国内外の研究は、フランス啓蒙、スコットランド啓蒙といった18世紀での啓蒙主義が主なものと見なされていた。こうした、言わば定番化、固定化された啓蒙主義の捉え方、研究トレンドの背景には、定冠詞の啓蒙主義 (the Enlightenment) を標榜する伝統的な啓蒙主義観がある。これに対し、不定冠詞の啓蒙主義、複数形の啓蒙主義 (enlightenments) を指摘する動きもあり、本研究課題はこの後者の捉え方、複数主義的な啓蒙主義を擁護すべく研究を開始した。

### 2. 研究の目的

本研究課題「イングランド啓蒙への学際的アプローチ ―「開かれた理性」の復権を目指して―」の目的は、18世紀での啓蒙主義に先立ち、17世紀中葉からのイングランドで展開された啓蒙運動、コーヒーハウス文化と言われるような形で展開された動きが、18世紀の啓蒙主義を用意した重要な思想的出来事であったことを示すことにある。特に、イングランド啓蒙に特徴的である「実験性・経験性」、「自律性・自立性」、「寛容性、受容性」という三つの柱の観点から、イングランド啓蒙の内実を明確化することを目指した。

### 3. 研究の方法

上記の三つの観点を軸として、各部門での研究を進めていった。ほぼ隔月の研究会を開き、先行研究紹介や、当時の重要テキストの読解、専門を異にする研究会メンバー間での研究発表およびディスカッションを進めていった。そうした研究会の成果は、主にイギリス哲学会での発表を通じて、公的な学問レベルにまで高めていくことを常に目指した。また、研究成果を公なものとすることを目指して、毎回の研究成果は、「イングランド啓蒙研究会」ブログで公開していった。

### 4. 研究成果

研究期間中、および直前の準備も含めると、第1回(2018年6月)から第29回(2022年10月)まで、合計29回の研究会を開催してきている。研究成果は、個人的な学会報告ならびに、以下のような4回の学会セッションを通じて公にしてきた。

- ・「イングランド啓蒙における理性行使の徹底化」(社会思想史学会第44回大会、2019年10月、甲南大学)
- ・「17世紀イングランドにおける啓蒙思想の萌芽―知性・意志・自律」(日本イギリス哲学会第44回大会、2020年3月、開催中止・ペーパー報告)
- ・「17世紀イングランドでの新旧哲学の融和と変容―信仰・理性・経験」(日本イギリス哲学会第46回大会、2022年3月、オンライン)
- ・「イングランド啓蒙への視角―平明性、自律性、寛容性」(社会思想史学会第47回大会、2022年10月、専修大学)

以上のような研究会、学会発表、学会セッションでの発表成果を踏まえて、研究論文集である『啓蒙主義に先立つ啓蒙』の原稿を揃え、出版社と交渉中である。この論文集では、科研費メンバーおよびゲスト執筆者を交えて、編者3名を含める合計12人の執筆者による、多層的かつ多角的な「イングランド啓蒙」に対する考察が展開されている。

各研究会での成果について、「イングランド啓蒙研究会」ブログでの情報公開を踏まえ、以下説明する。

第8回研究会(2019年6月): ヴォルテール『哲学書簡』(*Lettres philosophiques*)をテキストとして、当時のフランスから眺めたイギリスの状況を考察した。

第9回研究会(2019年8月): 前半にデイドロの生涯を、後半に『盲人に関する書簡』の書かれた歴史的背景を確認してから、内容を検討した。

第10回研究会(2019年10月): ジョージ・クロスコの近著 George Klosko, *Why should We Obey the Law?* (Polity, 2019) の内容紹介とその検討、ロックの『人間知性論』がアイルランドでどのように受け入れられたのか、トーランドによるロック知識論の継承・断絶の検討、トーランドの聖書解釈の検討。

第11回研究会(2019年12月): (1) M. Goldie 1999, 'Introduction' of *The Reception of Locke's Politics*, in Goldie ed., *The Reception of Locke's Politics: From the 1690s to the 1830s*, vol. 1, Pickering & Chatto 及び、(2) W. Molyneux 1698, *The Case of Ireland being bound by Acts of Parliament in England, Stated*, in Goldie ed. 1999, *The Reception of Locke's Politics*, vol. 1 について議論を行った。

第12回研究会(2020年6月): 前回にひきつづき W. Molyneux, *The Case of Ireland being bound by Acts of Parliament in England, Stated, 1698* の読解、および日本イギリス哲学会第44回研究大会(2020年3月)で開催を予定されていた、セッション報告を行った。

第13回研究会(2020年8月): 本研究会の会員である渡邊裕一の新著『ジョン・ロックの権利論 生存権とその射程』(晃洋書房、2020年2月)の合評会を実施した。

第14回研究会(2020年9月): 「感染症と啓蒙」というテーマで、ダニエル・デフォー『ペスト』(中公文庫)と、林直樹『デフォーとイングランド啓蒙』(京都大学学術出版会)の二冊を扱い、両書の内容を検討・議論した。

第15回研究会(2020年10月): 本研究会の会員である瀧田寧による「ロック『知性の正しい導き方』における哲学教育的意義 教養としての哲学教育の現場から」の発表。

第16回研究会(2020年11月): 本研究会の会員である中野安章によるハリソンの *Territories of Science and Religion* の中心を成す「科学と宗教の双生」の紹介。

第17回研究会(2020年12月): この研究会の母体となっている科研費基盤B「イングランド啓蒙への学際的アプローチ 「開かれた理性」の復権を目指して」の成果発表論文集の構想発表を行った。

第18回研究会(2021年1月): 前回に引き続き、科研費基盤B「イングランド啓蒙への学際的アプローチ 「開かれた理性」の復権を目指して」の成果発表論文集についての構想発表。それに加えて、イングランド啓蒙を理解する上でも重要なフランシス・ハチスンの『美と徳の観念の起源』についての紹介。

第19回研究会(2021年2月): 前回に引き続き、フランシス・ハチスンの『美と徳の観念の起源』「第一論文」の報告と検討を行った。

第20回研究会(2021年4月): 前回に引き続き、フランシス・ハチスンの『美と徳の観念の起源』「第二論文」の報告と検討を行った。

第21回研究会(2021年6月): 本研究会の母体となっている科研費基盤Bの成果報告としての論文集の構想を参加者で議論したほか、フランシス・ハチスン *An Essay on the Nature and Conduct of the Passions and Affections, with Illustrations on the Moral Sense* (1728/1742) の講読を行った。

第22回研究会(2021年8月): 本研究会の会員である青木滋之が「イングランド実験哲学の流れ 王立協会、知識論、アイルランドへの影」と題した研究発表をおこなった。

第23回研究会(2021年11月): 本研究会の会員である柏崎正憲「労働観の転換と啓蒙 トマス・モアからジョン・ロックへ」、渡邊裕一「啓蒙思想の影? 新大陸におけるロック所有権論の展開を追う」の研究発表。

第24回研究会(2022年2月): 本研究会の会員である内坂翼「ジョン・ロックの認識問題 実体論の展開」、竹中真也「カドワースの人間観 理性のありかたによせて」、中野安章「聖書釈義と自然哲学 W.ウィストンのニュートン主義自然神学」の研究発表。

第25回研究会(2022年4月): 本研究会の会員である瀧田寧「何が自立を可能にするのか ロックにおける「試みること」の意義」、下川潔「トマス・ペインと新しい自然権概念 ロック自然権概念のラディカルな変容」、武井敬亮「トーランド以降の理神論の展開 ジョン・ロックの「理性」認識を起点に」の研究発表。

第26回研究会(2022年5月): 本研究会の会員である小城拓理「フィルマーの契約論批判再考」、沼尾恵「ロックとヴォルテールの寛容論の比較」の研究発表のほか、青木滋之による「イングランド啓蒙」に賛成/反対の二次文献の紹介。

第27回研究会(2022年7月): 本研究会の会員である内坂翼「イングランド啓蒙における自由論の展開」、田子山 和歌子「啓蒙時代以前の光 リチャード・フッカーにおける理性主義」の研究発表。

第28回研究会(2022年9月): 社会思想史学会の第47回大会(専修大学)に向けた構想発表を行った。

イングランド啓蒙への視角 平明性、自律性、寛容性  
[世話人・司会] 柏崎正憲(早稲田大学・非常勤)  
[報告者] 青木滋之(中央大学・非会員) 武井敬亮(福岡大学・非会員) 柏崎正憲  
[討論者] 沼尾恵(慶応義塾大学・非会員)

第29回研究会(2022年11月): 社会思想史学会の第47回大会でおこなった本研究会のセッション報告「イングランド啓蒙への視角 平明性、自律性、寛容性」をふまえて、同セッションの報告者三名が、論文集の全体的な構想および各部の構成にかんする草稿を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 柏崎正憲	4. 巻 58
2. 論文標題 ブルジョワ社会の表象と資本主義生産様式 ジョン・ロックを読むマルクス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊経済理論	6. 最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕一	4. 巻 19
2. 論文標題 ジョン・ロックの刑罰論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文』学習院大学人文科学研究所	6. 最初と最後の頁 5-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧田寧	4. 巻 4-3
2. 論文標題 ロックの『人間知性論』における伝承の不合理な諸要因 パスカルの「想像力」と比較して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合社会科学研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井敬亮	4. 巻 44
2. 論文標題 書評：ジョン・ロック（加藤節訳）『キリスト教の合理性』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井敬亮	4. 巻 16
2. 論文標題 書評: Nathan Guy, Finding Locke's God: The Theological Basis of John Locke's Political Thought	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ピューリタニズム研究	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 51
2. 論文標題 『サイリス』の「一」に関するひとつの解釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野美術大学 研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木滋之	4. 巻 44
2. 論文標題 書評: Margaret C. Jacob, The Secular Enlightenment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木滋之・後藤大輔・竹中真也・内坂翼	4. 巻 44
2. 論文標題 17世紀イングランドにおける啓蒙思想の萌芽 知性・意志・自律	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 114-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧田寧	4. 巻 33
2. 論文標題 ロックの『人間知性論』における伝承の不合理な諸要因 パスカルの「想像力」と比較して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合社会科学研究（総合社会科学会編）	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 62
2. 論文標題 精神の「一」性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紀要 - 哲学（中央大学文学部）	6. 最初と最後の頁 159-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 63
2. 論文標題 「思念」と「アイデア」 一八世紀におけるプラトン主義の受容の一側面	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 紀要 - 哲学（中央大学文学部）	6. 最初と最後の頁 75-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 51
2. 論文標題 『サイリス』の「一」に関するひとつの解釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野美術大学 研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕一	4. 巻 19
2. 論文標題 ジョン・ロックの刑罰論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 5-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木 滋之	4. 巻 42
2. 論文標題 初めての国際ロック会議 (2018 John Locke Workshop) の報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 121-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24587/sbp.2019_121	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柏崎正憲	4. 巻 43
2. 論文標題 人間の弱さと自由 ジョン・ロックによるピエール・ニコル道徳思想の換骨奪胎	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 59,76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24587/sbp.2020_059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柏崎正憲	4. 巻 44
2. 論文標題 ジョン・ロックにおける自然法と市民的美徳 政治的貢献から勤勉へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 54,73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 エイドリアン・ブロー（後藤大輔訳）	4. 巻 1143
2. 論文標題 捜査活動としての政治思想史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 129-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 15
2. 論文標題 パークリにおけるプラトン主義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イギリス理想主義研究年報	6. 最初と最後の頁 22,31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 特集号
2. 論文標題 パークリにおける宗教と言語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イギリス理想主義研究年報	6. 最初と最後の頁 12,21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中真也	4. 巻 43
2. 論文標題 書評 富田恭彦『パークリの『原理』を読む：「物質否定論」の論理と批判』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イギリス哲学研究	6. 最初と最後の頁 82,85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 J.K. Numao	4. 巻 OnlineFirst
2. 論文標題 Locke on consent, membership and emigration: A reconsideration	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 European Journal of Political Theory	6. 最初と最後の頁 Online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1474885119852709	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計24件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 青木滋之
2. 発表標題 イングランド実験哲学の流れ 王立協会、知識論、アイルランドへの影響
3. 学会等名 第22回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柏崎正憲
2. 発表標題 労働観の転換と啓蒙 トマス・モアからジョン・ロックへ
3. 学会等名 第23回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊裕一
2. 発表標題 啓蒙思想の影? 新大陸におけるロック 所有権論 の展開 を追う
3. 学会等名 第23回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内坂翼
2. 発表標題 ジョン・ロックの認識問題
3. 学会等名 第45回日本イギリス哲学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 カドワースの知性と情念
3. 学会等名 第45回日本イギリス哲学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中野安章
2. 発表標題 聖書釈義と自然哲学 -W.ウィストンのニュートン主義自然神学-
3. 学会等名 第45回日本イギリス哲学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木滋之
2. 発表標題 趣旨説明：17 世紀イングランドでの新旧哲学の融和と変容 -信仰・理性・経験-
3. 学会等名 第45回日本イギリス哲学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木滋之
2. 発表標題 ロックの人格同一性の議論 その発生の背景と論理
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第45回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柏崎正憲
2. 発表標題 人間本性と道徳的自由 ジョン・ロックの完成主義
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第45回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤大輔
2. 発表標題 ホッブズの哲学方法論における「汝自身を読み」の意義
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第44回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瀧田寧
2. 発表標題 『知性の正しい導き方』における哲学教育的意義 教養としての哲学教育の現場から
3. 学会等名 第15回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 カドワースとパークリにおける「思念」について
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第45回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 パークリの「思念」の解釈　カドワースの生得説を手掛かりにして
3. 学会等名 第19回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野安章
2. 発表標題 『サイリス』におけるパークリーの生命哲学
3. 学会等名 第14回ロック研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沼尾恵
2. 発表標題 ロックと外国人の処罰権をめぐって
3. 学会等名 日本イギリス哲学会第44回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeyuki Aoki
2. 発表標題 Locke versus Berkeley revisited - an interpretive essay on historiography
3. 学会等名 UK-Japan Special Conference : Aspects of Early Modern British Philosophy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木滋之
2. 発表標題 ジョン・ロックの実験医学 内容と試訳
3. 学会等名 第13回ジョン・ロック研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柏崎正憲・青木滋之・武井敬亮・下川潔
2. 発表標題 イングランド啓蒙における理性行使の徹底化 ロック『人間知性論』からトーランド理神論へ
3. 学会等名 第44回社会思想史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masanori Kashiwazaki
2. 発表標題 Locke on Citizenship: Participation, Law of Nature and Political Membership
3. 学会等名 The 2019 John Locke Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小城拓理
2. 発表標題 政治的責務論における複合原理理論
3. 学会等名 第10回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤大輔
2. 発表標題 ホッブズは自らの哲学方法論から形相因を放逐したのか
3. 学会等名 日本哲学会第78回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 18世紀イギリスにおけるプラトン主義の一側面 『サイリス』を手掛かりにして
3. 学会等名 新プラトン主義協会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹中真也
2. 発表標題 デイトロ『盲人に関する書簡』について
3. 学会等名 第9回イングランド啓蒙研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沼尾 恵
2. 発表標題 多文化主義社会において「彼らが多すぎる」ことはありうるのか? : 規範的視点からの一考察
3. 学会等名 第26回政治思想学会研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 下川 潔、ピーター・アンスティ (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Bloomsbury USA Academic	5. 総ページ数 256
3. 書名 Locke on Knowledge, Politics and Religion: New Interpretations from Japan	

1. 著者名 渡邊 裕一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 218
3. 書名 ジョン・ロックの権利論	

1. 著者名 Sellers M. and S. Kirstie (eds)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Dordrecht: Springer	5. 総ページ数 -
3. 書名 Encyclopedia of the Philosophy of Law and Social Philosophy	

1. 著者名 瀧田寧・西島佑編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 240
3. 書名 機械翻訳と未来社会 言語の壁はなくなるのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>イングランド啓蒙研究会 English Enlightenment Forum of Japan  <a href="https://english-enlightenment-f-j.blogspot.com/">https://english-enlightenment-f-j.blogspot.com/</a></p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小城 拓理 (Kojo Takumichi) (10733040)	愛知学院大学・総合政策学部・准教授  (33902)	
研究分担者	後藤 大輔 (Goto Daisuke) (90835399)	早稲田大学・グローバルエデュケーションセンター・助手  (32689)	
研究分担者	下川 潔 (Shimokawa Kiyoshi) (40192116)	学習院大学・文学部・教授  (32606)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀧田 寧 (Takita Yasushi)  (10784663)	日本大学・商学部・准教授  (32665)	
研究分担者	武井 敬亮 (Takei Keisuke)  (90751090)	福岡大学・経済学部・准教授  (37111)	
研究分担者	竹中 真也 (Takenaka Shinya)  (50816907)	中央大学・人文科学研究所・客員研究員  (32641)	
研究分担者	中野 安章 (Nakano Yasuaki)  (40896940)	慶應義塾大学・商学部（日吉）・講師  (32612)	
研究分担者	沼尾 恵 (Numao Kei)  (20709232)	慶應義塾大学・理工学部（日吉）・准教授  (32612)	
研究分担者	渡邊 裕一 (Watanabe Yuichi)  (60848969)	熊本学園大学・経済学部・准教授  (37402)	
研究分担者	柏崎 正憲 (Kashiwazaki Masanori)  (90737032)	東京農工大学・学内共同利用施設等・特任助教  (12605)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------